



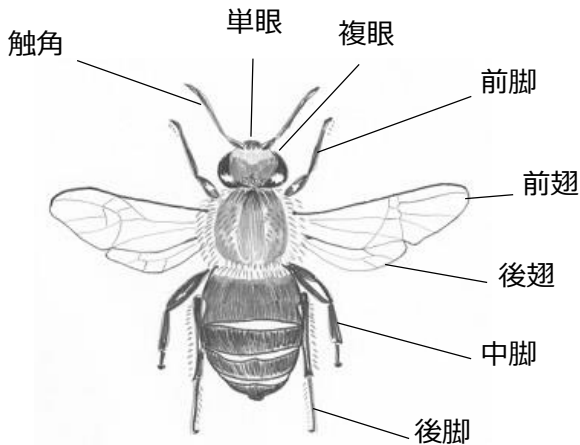


とねり自然図鑑



動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ〜」という情報もお楽しみに。

【撮影した竹内勝一さんのつぶやき】 かわいらしいミツバチを見つけたのでそっと写真を撮りました。今からこの花の蜜を運ぶのでしょうか？このミツバチはどこから来てどこへ帰っていくのか気になりますね。



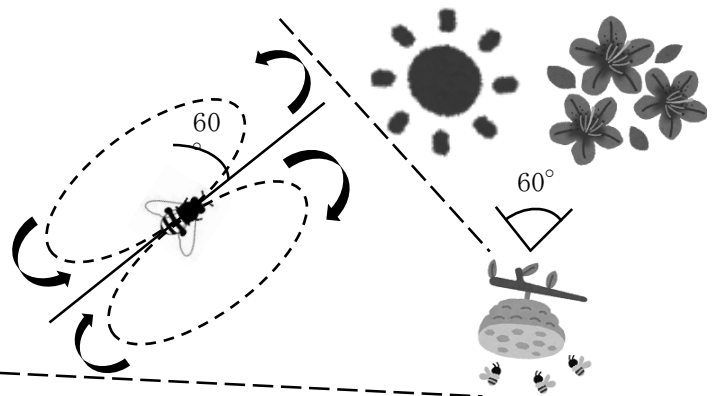
名称：ミツバチ
 学名：Apidae-Apis
 体長：女王蜂 約13mm-20mm
 働き蜂 約10mm-14mm
 雄蜂 約12mm-17mm
 分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄
 時期：3-11月
 主食：ハチミツ、花粉
 天敵：オオスズメバチ

【仲間のために、ミツバチは踊る！？】

○ハチミツをつくり出すことで有名なミツバチ。働き蜂は一生懸命に女王蜂のため、家族のため、花から花蜜を巣へ運んでいきます。実はこの働き蜂はすべてメスということをご存知でしょうか。じゃあ、オスは何をしているのかというと・・・何もしません。働き蜂から餌をもらうだけです。そのためオス蜂を指す英語「drone」は「なまけもの」という意味なのです。

オス蜂とは違って働き蜂であるメスは毎日毎日、花蜜を巣へ運んでいきます。ハチミツの元である花蜜をどうやって探し出しているのかというと、数の多い働き蜂が手分けをして花蜜がたくさんある場所を探しに行きます。では、数の多い働き蜂たちにどうやってその場所を伝えているのかというと・・・ダンスで伝えているのです。蜜源が近い場合は巣板上で尻を振りながら左右に交互に円形を描く「円形ダンス」を行います。逆に蜜源が遠い場合は巣板上で尻

を振りながら8の字を描く、「8の字ダンス」を行います。このとき尻を振りながら直進する角度が蜜源を示していて、真上が太陽を示す。つまり巣板上で右手60°の方向を向いて「8の字ダンス」を行っていると、「太陽を左60°に見ながら飛べ」という合図になります。ミツバチ同士のコミュニケーションとして、こういったダンスが行われているのです。



『舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓』

赤池学『昆虫力』 小学館

ギルバート・ワルドバウワー、屋代通子『虫と文明』 築地書館

七尾純、栗林慧『ミツバチのふしぎ』 あかね書房

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！